

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702115		
法人名	医療法人 権頭クリニック		
事業所名	グループホーム華里		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区八枝3丁目12-10 (電話) 093-692-5558		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成19年4月24日	評価確定日	平成19年6月27日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算 6.7人	

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄骨耐火建築物 造り	
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) 60,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 60,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	35,000 円		

(4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	権頭クリニック、正和中央病院、新日鐵八幡記念病院、かじわら歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームとして既に3年を経過し、前回の外部評価結果をよく踏まえ、また外部評価や自己評価の意味を咀嚼し、改善に努めている。サービスの質の向上を念頭に、全員で前向きに取り組んでいる様子が窺える。また、地域にも根付き始めており、非常に良い傾向が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価を真摯に受け止め、書類の整理を中心に改善を図った様子は随所に見受けられ、サービスの質の向上のために、外部評価の目的や趣旨、評価内容をよく理解し、全員で協議し改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の目的と意味を咀嚼して取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催しており、地域の方への理解を深めるにはよい機会である。地域の方や利用者家族の積極的な意見を引き出す取り組みにさらに期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>最近「ホーム便り」を発行、少しずつ家族とのコミュニケーションを深めている。さらに、アンケートの実施や家族会の開催などに期待したい。意見箱の設置も、些細なことでも取り上げ反映させることが目的であり、意見の汲み上げの工夫に期待する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>平成19年の餅つき大会は想像を上回る参加があり、盛大に行われた。また日常の買い物や散歩、地域の清掃活動や文化祭への参加、学校の職場体験学習の受け入れなどを通して、地域の中で貴重な役割を果たす一員として積極的に交流を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を掲げ、各フロア入口に掲示、このグループホームの在り方、理想をわかりやすく示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員にも浸透し、意識付けもなされ、実践に向けて前向きに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成19年の餅つき大会は想像を上回る参加があり、盛大に行われた。また日常の買い物や散歩、地域の清掃活動や文化祭への参加、学校の職場体験学習の受け入れなどを通して、地域の中で貴重な役割を果たす一員として積極的に交流を深めている。		地域の方を招いて食事会を行う予定があるとのこと。今までに培った地域との交流の絆を絶やすことなく、ますます意欲的な計画に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果に基づき、改善を図った点が多く見られ、サービスの質の向上のために外部評価の目的や趣旨、評価内容をよく理解し、全員で協議し改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催して討論を行っているが、地域の方や利用者の家族の方の積極的な参加と意見があると、またさらに違った展望が開けるのではないかと考える。		運営推進会議の開催によるメリットは大きく、意見を汲み上げる工夫などさらなる充実に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス事業の相談員が月に1回訪れているが、サービスの質の向上のために市町村と連携を図るところまでは至っていない。		市町村と議論する場を設けていくことは今後の課題と思われる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については利用があるが、権利擁護事業については具体的に実績がなく、現在は準備段階である。自己学習や研修を通して、いつでも対応ができるよう対応を整えている。		職員の意識と理解を研修等で深めると同時に、家族とのコミュニケーションの材料として投げかけてみるなどの工夫も望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活については手紙や電話で行うことが多い。最近「ホーム便り」の発行を始めた。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部という意味では北九州市の介護保険課を示す掲示物があるが、内部のことについての苦情、意見等が記録としては少なく、意見箱の設置などはあるが、汲み上げにもう少し努力が必要と思われる。		アンケートを実施する、家族会を開催する、などにより些細なことでもテーブルに上げてそれを反映させる場を作ることに期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が利用者にとってもマイナスであるという意識は持っており、管理者は職員とコミュニケーションを大事にして職場環境の整備にも力を入れている。異動や離職の際は、利用者の負担やダメージが少ないように精神的なケアを重点的に行っている。		異動や離職に伴って新しい体制作りが必要になった場合は、職員の側にも不安や不満を残さないような配慮も望まれる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては年齢や性別に関係なく必要な人材であるかを基調としている。また職員に対しては各自に責任ある立場を与え、仕事に対する充実感が得られるよう努め、職場環境の改善にも前向きである。職員の発言は貴重なものとして受け止めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や勉強会を通して取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は決して少なくなく、その後のフィードバックも行われているが、職員側にとっては、採用・退職を繰り返す職員のこともあり、研修、人材育成が業務、実務に結びつく体制を望んでいる。		職員の能力、経験、立場に応じた、計画的な研修参加が望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、ほかのグループホームの勉強会への参加などでネットワーク作りを展開している。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の事情からじっくりと入居の準備を行うことが難しいケースが多いが、家族や主治医からの情報を共有し、それをもとに個々人のタイプに即して徐々に馴染んでいけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は生活の中で編み物、生け花、野菜作り、店での野菜の選び方、他人への気遣いなど入居者が培ってきたものを入居者から教えていただく場面を大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表出すら難しいケースもあるが、態度や表情から気持ちを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームでケアを取り組んでいくという体制までには残念ながらなっていない。ケアに関わるさまざまな立場の職員の意見を取り入れ、家族も参加できるような促しをお願いしたい。		書類のための最低限のカンファレンスではなく、関わる人間のさまざまな意見を取り入れた介護計画であってほしい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録や状況の変化に基づき、現状に即して機能する介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの意味、趣旨を理解し、日常生活の中で多方面から個人を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とはうまく連携されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族・医師・看護師・職員の間で早い段階から終末期をどう迎えるかの検討を繰り返し行い、方針を共有、支援に取り組んでいる。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>対応には注意を払っている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者本人の能力と持ち味を確認のうえ、本人の意思や希望を尊重しており、決して職員側の考えを優先させていない。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立の決定も食材次第であることと入居者の希望も採り入れ、また準備や片付けには入居者に持ち場を与え、一緒に手伝っている。共同作業という認識、楽しい食事の時間を大切にしているが、職員は入居者と同じものを食べていない。</p>		<p>職員が負担する金銭の面、作る献立の好き嫌いの面など、事情は理解できるが、職員が入居者と違うものを食し、その中身や具材について話題とすることは、入居者の感情を逆撫でする危険性もある。「検食」はいうまでもないが、入居者と同じものを食すことの意義を再度職員とともに検討が望まれる。</p>
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴時間は午後から夕刻にかけて行っており、毎日の入浴も可能である。入浴を好まない方への促しも、タイミングや精神状態をみて心がけている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、掃除、家庭菜園など、張り合いや喜びを感じてもらえるような場を多く提供している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な機会の提供だけでなく、本人の希望で随時行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関に鍵をしているが、居室をはじめ鍵はなく、鍵をかけない取り組みを実践している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練も行っている。		災害対策という面で地域住民の理解が得られるようなさらなる働きかけに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量には注意を行っており、献立も栄養バランスを考えて立案しているが、カロリー計算が行われていない。		カロリー計算が入居者の家族の安心にもつながることを管理者も自覚しているとのことであるので、階下に併設サービス(系列)の栄養士のチェックを受けることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気にも努めており、音や照明、生活の安定を支える快適な環境となるよう努めている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みはある程度自由を認めており、皆さん思い思いの自分だけの空間を作って生活することを配慮している。		